

令和3年度 2学期始業式 校長式辞

皆さん、夏休みは、まずはしっかり休めましたか？

去年は、夏休みが1週間くらいしかありませんでした。今年は、去年に比べると長い夏休みになりました。ここ数日は、連日、猛暑が続いており、それと共に、コロナにも気をつけなければなりません。生徒の皆さんは今日から気持ちを切り替え、学校を軸とした生活に切り替え、勉強・行事・部活など1年で最も充実した2学期を元気に乗り越えられるようにしていきましょう。

さて、静岡県では新型コロナのニュースが連日報じられています。自粛・自粛の毎日ですが、オリンピックでの卓球の水谷・伊藤・両選手の活躍をはじめ、ソフトボール、野球、陸上などでの静岡県出身選手の活躍は、日本全国に明るい話題を提供してくれました。身近では、BMXフリースタイルの六合中出身の大池水杜選手、車椅子バスケットボールの島田北中出身の藤本怜央選手の活躍も私たちに勇気と元気を与えてくれました。つい昨晚も、快拳が新聞・TVで大きく取り上げられましたが、隣の藤枝市・広幡中出身の佐藤友祈選手が、車いす陸上男子400メートル・1,500メートルで見事2つ目の金メダルを取り、そのニュースが日本中を駆け巡りました。

実は、本校も、パラリンピック聖火リレーに、8月17日御前崎市から菊川市にかけて、10組の柴田理生さんが立派に聖火をつなぐという大役を果たしてくれています。

パラリンピックをTVで見ていると、選手の障害を負った理由など1人1人のいきさつを説明しています。「多様性と調和」をコンセプトにしたパラリンピックは、それら様々な選手の、「勇気」「決断」「可能性」「チャレンジ」などを学ぶ絶好の機会となります。

本校の全ての皆さんが、国・性別・障害・年齢などによらない、「多様な活躍」をお互いに推進していくために、「多様性社会(=ダイバーシティ)」を目指していかなければなりません。パラリンピアンと同じく、皆さんの可能性も無限です。「学ぶ姿勢」は、生涯において、とても重要なものですが、有名な会社、高校、大学へ行くことではありません。

自分を信じて、自分の夢を持ち、何を学びたいのかよく考え、たくましく切り開いてほしいと思います。皆さんの可能性を信じています！

校長 池谷英人